

令和7年度 第4回 川崎市社会教育委員会 青少年科学館専門部会議事録

日時 令和8年3月17日（火）14:00～15:20

会場 川崎市青少年科学館（かわさき宙と緑の科学館） 自然学習棟2階学習室

出席者（敬称略）

- （1） 委員 （公募市民）南條邦子（副部会長）、間渕秀和
 （教育職員）井上清一
 （学識経験者）佐藤武宏、山岡均、栗芝正臣
 （家庭教育関係）眞壁総子（部会長）
- （2） 事務局 久保館長、弘田、高中、清水、渡邊（司会進行）、齋藤、
 内藤（記録）、上田（生田緑地共同事業体）
- （3） 傍聴者0人

1 開会（渡邊）

事務局より開会告知、会議の成立、傍聴者受入（定員5名）、記録（録音及び筆記）作成及び会議記録公開について周知（傍聴者なし）、資料確認。

2 館長挨拶（久保館長）

4月から当館の様々な事業について忌憚のないご意見をいただきました。それらを真摯に受けとめ、来年度からもの確に事業を遂行したいと思います。

川崎市では「事業をスクラップすること」が管理職の目標の一つとされています。当館の事業は法律に基づいて必ず実施しなければならないというものではなく、事業を削ること自体は簡単にできるが、その中でも重複するものなど当館でなにがスクラップできるかを考えてきた1年でした。

一方、今年度も様々な新しい事業を行ってきました。自然分野では5月10日の地質の日に合わせて5本の地層剥ぎ取り標本の展示、夏には生物多様性と外来生物についての企画展を開催し多くの方に観覧いただきました。天文分野では字幕付きのプラネタリウム投影の制作や、岡本太郎美術館と連携しユニークな番組を投影しました。展示については春休みに野辺山天文台展を開催します。また、多摩市民館やカルッツかわさき等に出張し、持ち運びできるプラネタリウムで投影を実施。様々な世代に天文への興味関心を喚起しました。科学教育分野では、みんなの川崎祭で双眼実体顕微鏡での観察体験を実施したほか、毎週末のサイエンスワークショップの告知を動画で発信し、参加者数も増加しました。

このように、目標はスクラップであったが、多くの事業を行いました。当館だからこそできる体験があります。来ていただいた方にいかにして自然科学のおもしろさを伝えるかという視点を持ち、様々な事業バランスを考えながら適切な事業運営を考えてまいります。

これからも市民と歩む宙と緑の科学館として第2期運営基本計画に基づく様々な事業を実施しつつ、日々同じことの繰り返しではなく旬な情報を取り入れながら様々

な博物館事業を実施していきます。

進行者変更

議事進行（眞壁部会長）

3 議題 令和7年度 青少年科学館事業評価について

資料に1により「(1) 収集保存事業」について事務局より説明

渡邊 まず始めに、年度末のお忙しい中、短期間での作業ありがとうございました。

資料1を使用して御説明いたします。

1枚おめくりいただきまして、当館の令和7年度の実績・自己評価、今後の課題、その右はこれを受けての委員の皆様の評価と専門部会としての公開版のイメージをまとめたものになっております。委員の皆様の評価は1枚目の裏に表としてまとめ、専門部会としての総合評価の案も記載しております。この後、各事業の評価を決め、「各委員評価」の項目を削除し、ホームページで公表いたします。公表の際は、令和7年度の実績・自己評価欄にあります、対応する年報のページ数については削除します。

それでは、「1 収集保存事業 (1) 自然」から説明してまいります。

高中【自然分野】

①の収蔵資料の収集・分類・整理（台帳化）では、資料収集として剥製及び標本化を行い、哺乳類7点、鳥類10点、昆虫101点(すべて職員が採集)、植物662点、計780点を新規に作製いたしました。また、電子台帳への登録について、昆虫標本は既存資料を3,506点、新規作製資料を133点、植物標本は新規作製資料を735点、計4,374点を登録いたしました。

②のGBIF等国内外機関への資料情報の提供では、地球規模生物多様性情報機構(GBIF) およびサイエンスミュージアムネット(S-Net) に植物等の標本データ1,100点を提供いたしました。

今後の課題としては、未整理資料を計画的に整理・登録するとともに、継続的に新たな資料を作成する必要があるとございます。

評価コメントの中で、委員の皆様からは、剥製、標本の作製数が減少しているものの電子台帳登録が大幅に増加したこと、継続的に標本を作成し、電子台帳に登録していること、標本作製や資料整理と国内外機関への資料情報提供が着実に進められていることについて、評価いただいております。

評価につきましては、委員の皆様の御意見を踏まえ、Bといたしました。

弘田【天文分野】

①のプラネタリウム番組のアーカイブ化につきましては、毎月実施しているプラネタリウム一般向け番組の制作時に収集した文献資料、画像等の資料を番組素材、番組スクリプト、等の関連データとともにアーカイブとして保存し、今後の番組制作等に活かせるようにいたしました。

②の天文資料の整理保存につきましては、天文学史に関する資料の整理保管を継続して行い、富田資料の目録の公開に向けて分類整理を進めております。また、太陽観測記録のデジタルアーカイブの作成に向けて、黒点スケッチ約 500 点のデジタル化を実施しました。

今後の課題につきましては、委員からのご指摘がありましたとおり資料の適切な分類整理と、公開や有効活用について検討する必要があります。

評価につきましては、委員の皆様のご意見を踏まえ B といたしました。

清水【科学分野】

科学実験についての資料収集と保存・管理では、サイエンス教室、サイエンスワークショップなどの、館内科学系イベントで提供された計画書や報告書の管理とともに、市民団体が普及イベントを計画する際の参考資料として共有できるように、令和 7 年度サイエンスワークショップ実践事例集として冊子データにまとめました。また、館内展示を踏まえた画像及び動画データを収集しました。

今後の課題としては、実践事例集のさらなる活用に向けて、市民団体への周知を継続していく必要があります。

評価コメントの中で、収集した画像動画の活用と幅広い公開を進めてほしいとのご意見をいただいておりますが、こちらに関しましては展示の部分に関わって、科学展示コーナーやワークショップの広報用動画として SNS で公開をしております。引き続きどのような媒体を通じて公開できるか検討を進めてまいります。（たま区 deAR と Facebook が廃止となるため、公開できる媒体が減少している）また、実践事例集につきまして公開共有等有効利用できるようなことのご意見につきましては、冊子だけでなく市民団体とデータとして共有できるよう方法を模索していきたいと思っております。

評価につきましては委員の皆様のご意見を踏まえ、B といたしました。

収集保存事業は、以上となります。

【質疑応答】

無し

眞壁部会長 自然分野は評価 B、天文分野は評価 B、科学分野は評価 B とする。

資料 1 により「(2) 展示事業」について事務局より説明

高中【自然分野】

①の生田緑地の自然情報の発信では、生田緑地の自然について、リアルタイムな情報発信のため、受付横の「緑地案内ボード（緑地マップ）」を活用し、職員が観察・撮影した生き物の写真を 2 週に 1 回の頻度で更新いたしました。また、SNS を活用し、自然情報や展示紹介など 28 回更新いたしました。

②の新たな自然史資料による常設展示の更新では、生田緑地の動植物を季節ごとに展示する「生田緑地の四季だより」の写真をキャプションとともに 4 回更新し、計 32 点を展示いたしました。また、自然分野サイエンスワークショップの題材等をピックアップ展示にて実物資料とともに展示し、7 回更新いたしました。

③5 月 10 日の地質の日を記念して、川崎市地域文化財「オシ沼切通し多摩ローム層模式露頭剥はぎ取り標本」の 7 点のうち昨年度公開した 1 点を含む連続した 5 点を、5 月 11 日に特別展示として限定公開し、延べ 913 人が来場いたしました。

④企画展の開催では、生物多様性の保全と外来生物がもたらす問題についての興味・関心、地域の自然や動植物の保全に向けた取組みに理解を深めていただく機会として、生物多様性と私たちの暮らしの関わりや外来生物によって引き起こされる問題に焦点をあて、パネルでの解説や川崎にいる外来生物の標本を展示する企画展を開催し、延べ 9,479 人が来場いたしました。

今後の課題としては、展示物の更新にむけて、更新案を検討し、展示物を作製する必要があります。

評価コメントの中で、委員の皆様からは、新しい試みも交えて自然情報の展示や発信が積極的に行われていること、生田緑地の自然に関して継続的に情報発信したこと、生物多様性の保全と外来生物がもたらす問題に関する展示を開催したことについて、評価をいただいております。

評価につきましては、委員の皆様の御意見を踏まえ、B といたしました。

弘田【天文分野】

①のプラネタリウム一般投影につきましては、毎月テーマを変えた一般向け番組を企画、制作し、投影を実施いたしました。

②の子ども向け投影については、土日、祝日等に子ども向け投影を実施しております。また、系外惑星をテーマとした新番組を制作し、来年度から一般公開予定です。

③の星空ゆうゆう散歩はベテラン解説員である元職員が講師を務め、8 月を除く

毎月実施し、多くの来場者を集めました。

④乳幼児向けの「ベビー&キッズアワー」は月 1〜2 回実施しました。

⑤学習投影は小中学校等の団体利用を受入れ、各学年や利用する学校の希望に応じて実施しました。

⑥一般団体の貸切利用「星空自由空間」では、病院職員のレクリエーション、放課後児童クラブでの利用の 2 件の利用があり、利用者の希望に合わせた投影を実施しました。

⑦バリアフリーの一環として聴覚障がい者でも楽しめるよう解説やナレーションに字幕を付けた投影を 2 月に初めて一般向けに実施しました。

⑧天文関連展示といたしまして、10 月にオーロラ写真パネル展を実施しました。出張企画展として市役所本庁舎にて 1 月から 2 月にかけてオーロラ写真パネル展を行いました。また、3 月から 4 月にかけて野辺山天文台展を実施します。

今後はプラネタリウムのさらなる活用が課題です。

委員の皆様からは、字幕付き投影など多様な利用者に向けた企画について高い評価をいただいております。評価につきましては、委員の皆様のご意見を踏まえ A といたしました。

清水【科学分野】

市民協働の科学工作展示では、サイエンスワークショップを広報するために、5 月より SNS を通じた動画による広報及び市民団体から提供を受けた工作物等の展示を毎週の発信・更新を基本に行いました。教育普及イベントにおいて制作した工作物の原理や作り方を紹介する常設展示コーナーの内容 1 点を更新しました。

展示手法として多摩区と連携した AR コンテンツにつきましては 2 次元コードの表示場所を増やしたことで令和 7 年 4 月から 12 月までで 302 名 398 回と昨年度に比べ約 4.9 倍と大幅に利用が増えました。ただ、こちらの AR コンテンツにつきましては今年度いっぱい事業を終了する予定である旨多摩区から聞いております。

来館者が科学工作の紹介を視聴できるデジタルサイネージの動画を 2 つ編集し追加更新しました。

今後の課題としては、科学の楽しさへの興味を喚起していくために動画や実物を用いた広報を続けていく必要があります。

評価コメントの中で、AR コンテンツの利用が増加したことについてご評価いただきました。こちらにつきましては、今まで 1 か所だった、AR コンテンツを読み取る二次元コードの掲示場所をお客様が滞留しそうな、プラネタリウムやワークショップの待機列ができる場所や図書コーナーに設置したことが利用状況改善の要因ではないかと考えております。ただこちらの事業につきましては、多摩区の事業となり、3 月末で終了し 4 月からは全く別の事業に予算が使われることが決定して

おりますので、今後はデジタルサイネージや SNS 等での発信を続けることで、来場者の科学への関心を誘うきっかけにしていきたいと考えております。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえ、Bといたしました。

展示事業は、以上となります。

【質疑応答】

山岡委員 天文分野以外でのバリアフリー関係の対応はありますか。

高中 自然分野では展示解説書の点字版がありますが、そこまで詳しい解説文ではありません。

清水 科学分野ではデジタルサイネージの動画は小さいお子さんからわかるように、やさしい日本語を使っていますが、それ以上のことは行なっていません。

眞壁部会長 自然分野は評価 B 天文分野は評価 A 科学分野は評価 B とします。

資料 1 により「(3) 調査研究事業」について事務局より説明

高中【自然分野】

①の市域の生物調査では、自然系市民団体への委託事業として、生田緑地を中心に市域における動植物相解明を進めるための生息種の確認調査を行うとともに、生息状況把握のための実態調査を実施いたしました。

また、計画当初には予定しておりませんでしたでしたが、市内でヒナコウモリが保護されたことを受けて、保護記録をとりまとめ「川崎市の市街地におけるヒナコウモリの保護記録について」として紀要第 36 号で公表いたしました。

今後の課題としては、今後、調査結果について市民への適正な還元方法を検討する必要があります。

評価コメントの中で、委員の皆様からは、限られた時間の中で継続的に調査を進めていること、ヒナコウモリのような予定にないものの報告したことについて、評価をいただいております。

また成果の公開方法については、今年度は紀要での公表したほか、観察会等のイベントにて、これまでの調査結果からイベントテーマにあった内容を活用し、参加者の方にお伝えいたしました。今後も市民の方に生き物への興味を持ってもらうきっかけとなるよう、工夫して参ります。

評価につきましては、委員の皆様の御意見を踏まえ、Bといたしました。

弘田【天文分野】

①川崎市域の星の見え方調査として、夏季と冬季にデジカメを使った市民参加に

よる市内での星の見え方を調査しました。夏はより多くの市民が関心を持ち、参加できるように、ひとつの星座で1〜5等星が確認できるはくちょう座の肉眼での観察を実施し、95件のデータが集まり、市内での星の見え方が一目で把握できるよう地図情報システムの活用によって詳細な解析を行いました。肉眼での星空調査の結果につきましては紀要に公表いたしました。

②太陽表面の観測を継続して行い、観測データの解析を行いました。また、環が消失した土星等の観測を行いました。

今後は、星の見え方調査について、より多くの市民が参画できる調査手法と告知が課題です。

委員から春と秋の星の見え方調査についてご意見いただいておりますが、まずは夏と冬に実施している調査により多くの市民の参加を促し、その上で（他の業務とのバランスを考慮しながら）新たな手法を検討したいと考えます。また、調査結果につきましては紀要だけではなく館内での掲示やホームページを通して広く市民の皆様に公表いたしました。

評価につきましては、委員の皆様のご意見を踏まえBといたしました。

清水【科学分野】

市民の興味関心を高める調査研究の実施では、

①ワクワクドキドキ玉手箱の新たなテーマとして、タネの発芽やニボシの体のつくりなどを観察を通して学べる新たなキット「生きものを探ろう」を市民団体と協力して開発・整備しました。

②科学館の学習支援として実施している地層解説及び地層貸出キットを元にした、かわさき GIGA スクール構想で活用されている端末に対応した小学校向けデジタル教材に対する意見収集を行い改良を行いました。また、中学生向けデジタル教材を作成するため、館内で意見交換を行い必要な資料収集を行いました。

学校現場の要望を聞き取りながらデジタル教材を改良・開発していくことが今後の課題です。

評価コメントの中で、GIGA 端末を活用したデジタル教材の開発についてご意見を多数いただきました。引き続き、先生方との意見交流を通してデジタル教材の開発・改良を進めていきたいと思っております。

評価につきましては委員の皆様のご意見を踏まえ、Bといたしました。

調査研究事業は、以上となります。

【質疑応答】

佐藤委員 星の見え方調査の結果・発信が紀要、ウェブサイト、記者発表資料などでし

か見ませんが、館内の掲示やプラネタリウム観覧者への告知はしていましたか。また、調査結果を見ると報告に偏りがあるのではないですか。中原区や宮前区など教育熱心な方が多そうな場所が少ないが、その理由は分析しましたか。

弘田 館内掲示はしていましたが、プラネタリウムでは紹介していないので今後番組制作で活かせる場所があれば活用したいです。調査結果の偏りに関しては、あくまでも市民の方の任意の活動を集計したものですので、きっかけなどの分析はわかりません。傾向として、毎年継続して調査に協力いただいている方がいるので、そういう方を増やしていきたいです。

館長 今年度は各区役所の庁内放送で、星の見え方調査の解説を放送しました。区役所の利用者に少しでも周知をしようと実施しましたが、声だけで伝えるのがむずかしく、来年度に向けて子どもでも参加しやすい手法を考えていきます。

井上委員 GIGA 端末について、地層関係では日常的に活用した学習を進めています。小学生向けに対応したデジタル教材はとても重要と考えています。特に川崎市の自然環境を扱ってもらえると、GIGA 端末で学習したことが、実際の現場で見ることでより一層の学習効果があります。学習支援の成果と課題を共有しながら、今後も進めていきたいです。

清水 ご意見を聞かせてください。

眞壁委員 GIGA 端末向けの教材は、川崎市の子ども達しか見られないのでしょうか。例えばデータを少し加工することで、市外の小学生たちがデータ図書館的に1週間借りて使用するなどはできますか。そういうことができると、近隣の小学生もデータで勉強できてよいのではないのでしょうか。

清水 この教材は川崎市の学校の先生に活用頂けるように開発をしたものです。川崎市の GIGA 端末上において閲覧できます。実際の地層観察会の際に見られる地層の写真や説明内容と、学校向け地層貸出キッドの使用法、指導案などが入っています。教員向けですので、市内の小学生も直接は接続できません。ただ、写真等の資料は自由に使用可としています。その中で利用を広げていければと思っていて、生田緑地に来る学校が増えればと思います。

南条委員 天文分野について。星の見え方調査について、SNSなどで発信して募ることはないのでしょうか。

弘田 ホームページだけでなく、SNSでも告知をおこなっていますが、それほど効果がありません。情報の拡散に協力いただけるのであればありがたいです。

眞壁部会長 自然分野は評価 B、天文分野は評価 B、科学分野は評価 B とします。

資料1により「(4) 教育普及事業」について事務局より説明

高中【自然分野】

①の生田緑地観察会では、生田緑地を会場に、種子植物、シダ植物、野鳥、昆虫、地層などをテーマに、現地で見られた動植物や自然環境について講師が解説することで、参加者の興味関心を持つきっかけとなる観察会を当日受付の形式で計 18 回開催し、参加者は延べ 395 人でした。あと 3 回実施予定でございます。

②の自然分野の教室では、来館者を対象に、動植物や自然環境に対する興味関心を深められるよう、座学と観察会で学ぶ教室や、より深く自然を理解するおしごと体験、博物館の役割を学ぶバックヤードツアー等を計 9 回実施し、参加者は延べ 123 人でした。あと 1 回実施予定でございます。

③のワークショップ（自然分野）では、1 回 15～20 分程度でできる観察や工作等の体験学習を計 12 回実施し、参加者は延べ 762 人でした。あと 1 回実施予定でございます。

④の自然サポーター研修会では、自然や動植物に関心のある市民を対象に、川崎市域で自然調査や観察会を行う自然サポーター候補を募集し、養成する研修会を開催し、研修会から 10 名の修了生を輩出いたしました。

⑤の自然観察（地層・林）では、地層観察では、生田緑地で地層の成り立ちについて学習するプログラムを、計 28 回、延べ 2,898 人に対して実施いたしました。あと 4 回実施予定でございます。また、教員の観察コースの事前下見・相談への対応、教員の事前学習、生田緑地での観察が困難な学校向けに地層の写真や地層サンプルをまとめた学習キットの貸出しを行い、市内学校 5 校、市外学校 1 校が利用いたしました。林の観察では、生田緑地の樹林における季節ごとの動植物の観察を理科の学習の一環として、計 2 回、延べ 164 人に対して実施いたしました。

⑥総合的な学習の時間支援では、生田緑地の自然等をテーマに、生活科・総合的な学習の時間として課題解決学習の支援を計 4 回、延べ 176 人に対して実施いたしました。

今後の課題としては、野外活動において、夏季では熱中症対策を踏まえ対応する必要があるとございます。

評価コメントの中で、委員の皆様からは、限られた時間とマンパワーの中で、4,000 人もの利用者に対して教育普及活動を実施していること、様々な自然観察会、サイエンス教室、研修会を実施し、多くの参加者を得られたこと、毎年コンスタントに参加者を得て、観察会やワークショップを実施できていること、地層の成り立ちについて学習するプログラムは大変有効であることについて、評価をいただいております。

評価につきましては、委員の皆様のご意見を踏まえ、A といたしました。

弘田【天文分野】

①平日昼間にアストロテラスを公開し、モニタ上での太陽観察を実施しました。また月 2 回程度日曜日に「昼間の星を見る会」を開催し、太陽の他、金星や 1 等星など昼間に見える明るい天体の観察会を開催し（1 月までに）7 回実施し参加者は 660 人でした。

②夜間の天体観察会は、「アストロテラス夜間一般公開」として月に 1 回開催しました。曇天等による中止があり、今年度は（1 月までに）7 回の実施、参加者は 1,302 人でした。

③環が消失した土星の特別観望会を 11 月に開催し、197 人が参加しました。

④小学生を対象に年間を通じた連続講座「プラネタリウムワークショップ」を開催し、プラネタリウムの操作体験や番組制作を通じて天文学への知識を深め、関心を高めてきました。3 月 22 日に参加者の家族等の他、一般来館者に向けた発表会を実施します。

⑤プラネタリウム発表会は、日本女子大学附属高等学校と連携した事業として、天文クラブ生徒によるプラネタリウムの番組制作、投影発表会を実施しました。

⑥天文講演会は明治大学理工学部から講師を招き、大気現象や南極での観測についてお話いただきました。参加者数は 67 人でした。

⑦天文サポーター研修会として、「アストロテラス夜間公開」等を協働で実施する天文サポーターの資質向上のため定期的に研修を実施し、学習会、天体観測の実習などを行った他、「アストロテラス夜間公開」参加者への配布資料の作成を毎月行い、天体観察会を充実させました。

⑧プラネタリウムを活用したイベント投影として、東京交響楽団とのコラボレーションによるプラネタリウムコンサートと、アラスカなどで撮影された美しく迫力ある映像をお楽しみいただくオーロラ上映会を開催し、多くの方にご来場いただきました。いずれも多くの方が来場し、アンケートからは高い満足度が得られました。

また、仙台市天文台制作の震災特別番組の上映会を実施しました。

⑨かわさき星空ウォッチングでは、学校等の依頼を受けてアストロカーによる出張観望会を 2 月までに 19 回実施し、延べ 2,058 人が参加しました。

⑩天文分野のサイエンス教室は、時計の工作や夜間の天体観察、プラネタリウムバックヤードツアーなどを年間で 10 回開催し、延べ 141 人が参加しました。

委員からご意見のありました出前授業につきましては、要請に応じて対応してまいります。また、プラネタリウムコンサートについては予算その他の状況を踏まえて年 1 回の開催としております。

今後の課題としては、天体の観察は天候に大きく左右されるため、天候に応じて事業を実施する必要があります。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえ A といたしました。

清水【科学分野】

①ワクワクドキドキ玉手箱・出前科学実験教室では、実験キット「ワクワクドキ

ドキ玉手箱」を活用した出前科学実験教室を科学市民団体との協働にて実施しました。今年度は 36 回実施し、計 1,328 人の利用がありました。

②③の科学分野のサイエンス教室サイエンスワークショップにつきましては、小学生から大人まで、様々な年代を対象とした科学分野のサイエンス教室は 26 回開催し 407 人が、サイエンスワークショップは 47 回開催し 3,429 人が参加しました。多くの科学講座を市民団体と協働で運営しました。

④第 20 回かわさきサイエンスチャレンジでは、8 月 2 日に出席し、科学館出席のワークショップに計 961 名の子どもと保護者が利用しました。

⑤科学サポーター研修会では、館内イベントであるサイエンス教室やワークショップを実践の場とした研修会を開催しました。令和 7 年度は研修会から 11 名の修了生を輩出することができました。

⑥子ども創意くふう教室では、小中学生を対象とした講座として 11 月から 1 月にかけて 5 回開催し、延べ 40 人が参加しました。

⑦出前教室では、10 月 14 日、かわさきホリスタの日に川中島中学校区地域教育会議の依頼により出張プラネタリウムを開催しました。当日は、午後 1 時半からと 2 時半からの 2 回投影をし 39 名が参加しました。

⑧学校支援のゆうゆう広場科学実験教室では、川崎市適応指導教室との連携による科学実験教室を年間 24 回開催しました。

⑨かわさき GIGA スクール構想での学校支援として、授業活用や科学館利用をねらい地層観察会の事前事後や地層貸出キット利用時に活用できる教員向けのサイトを GIGA 端末上で提供しました。

今後は、市民協働の教育普及事業を継続できるよう、サポーターの育成に取り組み、より多くの世代の参加を促す必要があります。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえ、A といたしました。

高中【出版事業】

①の青少年科学館「紀要」等出版物の刊行では、川崎市青少年科学館紀要第 36 号への投稿について HP 等で周知し、投稿原稿を著者と連絡調整しながら内容確認と編集を行い、科学館ホームページで 3 月末に公開いたします。

②では、地層観察ガイドブック改定版を作成し、科学館ホームページで3月末に公開いたします。

今後の課題として、デジタルデータのみの公表のため、発行の際、市民の活用につながるよう周知する必要があります。

評価コメントの中で、委員の皆様からは、紀要、ガイドブックが計画的に発行できていることについて、評価をいただいております。

また、原稿の校正・確認体制については、館職員複数名で確認することで、校正精度の向上を図って参ります。電子出版ならではの工夫としては、調査結果から展示パネルを作成する際に、該当する紀要原稿の二次元コードを掲示することで、来館者にむけて当館紀要の利用へとつなげることもございます。電子データのアクセス状況につきましては、紀要掲載ページがホームページのデザイン上、複数項目とあわせてのページとなっているため、紀要のみのアクセス数の把握はできない状況ですが、当館紀要は無料で閲覧でき、今年度は当館紀要の閲覧をきっかけに、夏休みの自由研究の相談のため来館されたご家族が2件ございました。

評価につきましては、委員の皆様の御意見を踏まえ、Bといたしました。

教育普及事業は、以上となります。

【質疑応答】

間瀬委員 参加者の感想や要望についてまとめていただきたいです。全ての分野に該当しますが、様々な事業を実施したことは書かれていますが、それがどうだったかという評価がありませんでした。今ここで説明してほしいということではありませんが、もう少し書いていただいた方がよかったです。今後検討してほしいです。

館長 我々がどこまで参加者の要望に沿った対応が出来ているかというのは完全に把握できていないところもありますが、当館では常に来館者アンケートは実施しており、私は全て目を通しており、解決できるものについては速やかに私からそれぞれの担当に指示・依頼しています。天文関係などアンケートができるイベントについても全て目を通して、次回以降に反映させていくようにしています。時間が限られているものなどについては、一部の方は来館者アンケートに記載いただいておりますが、どういう形で声を拾うかは今後検討します。

眞壁部会長 自然分野は評価A、天文分野は評価A、科学分野は評価A、出版分野は評価Bとします。

資料1により「(5) ネットワーク事業」について事務局より説明

清水【展示・企画】

①の FIELD MUSEUM 展では、専修大学ネットワーク情報学部コンテンツデザインプログラムを専攻する学生と協働し、「FIELD MUSEUM展：親子で楽しく学べるカガクおもちゃのデザイン展」を開催しました。学生主体による 11 のワークショップを屋内外で展開し、当日は約 500 名の利用がありました。

②その他として、当初の計画にはありませんでしたが、11 月に川崎駅前で開催された「みんなの川崎祭＝みんかわ」に「顕微鏡でのぞいてみよう」をテーマに出展しました。また、こども未来局との連携により 3 月にカルッツかわさきで開催された青少年フェスティバルにおいて出張プラネタリウムを実施しました。

今後の課題としては、様々な主体と連携する中で、事業の魅力を広げ、さらに利用者増となる広報等、周知につながる取組が必要と考えています。

評価コメントの中で、新たな連携先への模索についてご意見をいただきました。今年度は 2 つの新たな連携に取り組みましたが、今後も科学館の周知と新たな来館者獲得のため、外部との連携を積極的に進めていきたいと考えております。

評価につきましては委員の皆様の御意見をふまえ、B といたしました。

高中【調査研究・収集保存】

①の川崎市域の生物調査では、「特定非営利活動法人かわさき自然調査団」と協働で行ったこれまでの調査の結果をまとめ、「多摩川中流域宿河原周辺の鳥類調査」として紀要第 36 号で公表いたしました。

今後の課題としては、他の博物館等と連携し、それぞれが持つ専門性を活かした事業の推進が必要でございます。

評価コメントの中で、委員の皆様からは、外部の団体と連携した調査の結果を公表することについての評価をいただいております。

評価につきましては、委員の皆様の御意見を踏まえ、B といたしました。

清水【学習支援】

①職場体験・職業インタビューでは（2 月 27 日まで）市内中学校・高等学校 14 校 64 名を受け入れました。参加した生徒による常設展示のポップ作りやプラネタリウム投影に向けた館内アナウンスなど、来館者へ発信する体験学習に取り組みました。

②中学校連合文化祭開催では、理科部門の北部会場として協力しました。プラネタリウム鑑賞、研究発表・表彰式への会場協力を行い、当日は 104 名の生徒・教員が参加しました。

③教員・職員等研修の受入れでは、川崎市総合教育センター共催での中学校理科初任者指導力向上研修会や臨地研修会、横浜国立大学との連携で現職教員によるCST養成講座を実施しました。また、2週間の博物館実習を実施し、8名の大学生を受け入れました。

今後の課題としては、職場体験での生徒の活動について、より「仕事体験」としての面を強めていくことが必要であると考えています。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえ、Bといたしました。

弘田【地域振興・生田緑地内】

①図書館、区役所等との共催事業といたしまして、多摩区民祭において市民団体による特別投影を実施いたしました。また、宮前市民館、菅生分館及び多摩市民館と連携した移動式プラネタリウムを使ったイベントを実施しました。

②大学、地域団体等との共催事業として、川崎天文同好会共催の天文講演会を元国立科学博物館の研究員を講師に招いて開催し、50人が参加しました。また、多摩天文グループと共催の天体写真展を9月に開催しました。

③日本民家園との連携事業として7月に七夕体験を実施し、科学館ではプラネタリウムでの子ども向け七夕投影、短冊の配布を行い、民家園では七夕飾りつけ体験とミニ笹配布を実施しました。10月のお月見フェスタでは、両施設学芸職員による民家園でのお月見トークを実施し、夜間のお月見プラネタリウムでは、中秋の名月について子どもから大人まで観覧いただける番組を投影しました。また、岡本太郎美術館と連携した特別投影を2月に実施しました。

④各館の広報担当者による定期的な広報会議において情報共有を図り、当館及び生田緑地全体の魅力向上及び情報発信を行いました。

回遊性向上については、子どもたちの夏休みに合わせ、生田緑地内施設3館、藤子・F・不二雄ミュージアム、多摩区行政サービスコーナーと連携しスタンプラリーを実施し、科学館ではスタンプの台紙を1,615枚、3か所のスタンプでもらえるクリアファイルを801枚配布しました。スタンプラリー全体の参加者は、15,636名、3か所達成者は4,376名となっております。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえ、Aといたしました。

【質疑応答】

山岡委員 冒頭の館長の挨拶で紹介された「みんかわ」は毎年開かれているものなので

でしょうか。

清水 はっきりとはわからないが、ここ 2、3 年で始まった行事と思います。

館長 昨年川崎市が市制 100 周年だったのがきっかけと思われます。かなり大掛かりなイベントで、付近ではかわさき市民祭も行われており、それらともあわせて、市役所通などをみんなで盛り上げる動きとなっていました。

眞壁部会長 展示企画は評価 B、調査研究・収集保存の評価 B、学習支援の評価 B、地域振興・生田緑地内は評価 A とします。

資料 1 により「(6) 管理運営」について事務局より説明

渡邊【管理運営】

①管理業務ですが、今年度は第 3 期指定管理の 3 年目にあたります。管理運営・広報業務の円滑な実施のため、市の管理・学芸部門と連携して業務の運営を行いました。また、4 月の緑化フェア開催時には緑化フェア推進室等と連携し運営を行いました。

②危機管理ですが、市職員、指定管理者、ショップ及びカフェの関係者が参加し、9 月に実際に館内の通報設備を使用したり自然学習棟の消火栓から放水を行うなどの通報・消火訓練、3 月 6 日には更新した防災マニュアルに沿って、地震及びそれに伴う土砂崩れの発生を想定した訓練を行いました。また、有資格者による消防設備点検のほか、市職員も館内防災点検表により毎月点検・報告を適切に行っています。

③進行管理ですが、事業計画、中間報告、事業視察、それからこれは本日ですが、事業報告等のため年 4 回専門部会を開催し、当館事業の進行管理を適切に行いました。また、その際、これまでの指導・助言等を踏まえた上で、資料等において的確に報告・情報提供を行うことで事業報告等を円滑に行いました。

今後の課題といたしましては、リニューアルから 13 年が経ち、老朽化が目立ち始めているため、指定管理者と連携して修繕等を行っていく必要があります。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえ A といたしました。

管理運営事業は以上でございます。

渡邊【科学館の魅力を高めるサービス】

①広報計画ですが利用者にわかりやすいホームページを目指し改修を行いました、また、6 月に新たに Instagram のアカウントを開設し、X や Facebook 等による情報発信を積極的に行い、Instagram のフォロワーを 509 人獲得、X のフォロー

一数が 262 人増加しました。なお、Facebook につきましては、12 月で更新を終了しております。また、毎月の学芸職員のラジオ番組出演のほか、新聞、雑誌、テレビ、ラジオの取材に積極的に協力し、幅広く広報活動を行いました。

また、今年度新たに、津久井道の市が管理している堀 1 か所に生田緑地の他施設とともに、科学館のタペストリーを設置し科学館の存在をアピールしました。夏季には東口ビジターセンターの前と科学館前に「プラネタリウム冷えてます」の幟を掲げ、プラネタリウムの観覧を促しました。

②魅力を高めるサービス展開につきましては、利用者からの御意見等に迅速に対応しつつ、適切な案内及び接遇を行うほか、学芸部門の職員によるレファレンス対応などにより、館全体の魅力向上を図りました。

③多様な利用者への配慮につきましては、バリアフリー関連設備・用具、表示の保全や、研修等による人的支援の充実を図るとともに、英語・中国語・韓国語の館内案内を用意し外国人来館者への利便性向上を図りました。また、プラネタリウムでは、ヒアリンググループ受信機の貸出を行いました。また、展示事業の天文でもお話ししましたが、一般向けとしては初めて 2 月に字幕付き投影を 2 回行いました。そのほか、地層タワー横にある階段の踊り場に安全に配慮し、ミラーシートを設置しました。

今後の課題といたしましては、より効果的な広報の方法を模索し、当館の魅力を積極的に発信していくことだと考えております。

スマホを活用したサービスの開発につきましては、指定管理者である株式会社日比谷花壇が、日比谷花壇が指定管理を行っている全国の施設の情報を集めた「公園びより」というアプリを昨年配信し、当館も掲載されております。

関連して、紙媒体の配布が無くなった件につきましては、館のホームページや SNS のほか、市のイベントアプリを活用しながら、広報を行ってまいります。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえ A といたしました。

科学館の魅力を高めるサービス展開は以上でございます。

【質疑応答】

間瀬委員 老朽化に伴う修繕については、館の外の広場などは範囲外なのでしょうか。中央広場に植物の名前の掲示があるが、QR コードが読み取れません。館の管轄外ということであれば、連携ということで、修繕を要望します。科学館の魅力を高めるサービスとして、スマホが活用できるサービスの開発を期待しています。例えば展示に

QRコードにおいて、さらに詳細の解説や動画が見られるなどといったことが出来ればよいと思います。費用がかかる話ではあるが、今後検討してほしいです。

栗芝委員 科学館の魅力を高めるサービスに関連して、向ヶ丘遊園・登戸地域は再開発が進んでいます。今後向ヶ丘遊園駅南口側も着手されます。南口から生田緑地までの導線がとても重要であり、核になるのが科学館です。南口側に新たな動きがあったときに科学館の広報を乗せていくことができれば、導線がうまく確保できると思われます。

館長 向ヶ丘遊園駅の南口から生田緑地まで1直線で、昨年度の全国都市緑化かわさきフェア開催時に、駅から生田緑地まで「いかに楽しくあるいてもらえるか」という取り組みをやると聞いていましたが、実際は住宅街が続きお店も少なく難しかったようです。今は年に1回、各施設のフラッグが更新掲示されていますが、時間がたつと傷んでいることもあり、歩きながらワクワク感を醸成するのは難しいですが、関係機関と調整しながら進めていきます。

眞壁部会長 管理業務は評価B、科学館の魅力を高めるサービスは評価Aとします。

眞壁部会長 視察についての報告をお願いします。

4 報告事項について

(1) 第3回専門部会（視察）実施報告について

渡邊 資料2により説明

【質疑応答】

無し

(2) その他

渡邊 事務連絡

眞壁部会長 本日の議題は以上。全体を通してコメントはあるか。

【質疑応答】

無し

進行者変更

5 閉会（進行渡邊）

眞壁部会長、議事ありがとうございました。また、委員の皆さまも御助言ありがとうございました。

今回の会議で現任期最後の会となります。お忙しい中2年間ありがとうございました。

た。以上を持ちまして、第4回専門部会を閉会いたします。本日はありがとうございました。